

## 第2期第二種特定鳥獣（ニホンザル）管理計画の概要

### 1 背景及び目的

#### (1) 背景

- 日本のニホンザルは戦後の乱獲等により分布域が減少したが、その後、中山間地域や都市部に拡大
- 分布域の拡大に伴い、農業被害、人的被害等が顕在化
- 本県においても、同様の傾向であり、生息数の増加や生息域の拡大に伴い、被害が増加

#### (2) 目的

ニホンザルによる被害の軽減及びニホンザル個体群の長期にわたる安定的な維持を図る。

### 2 管理すべき鳥獣の種類（特定鳥獣）

ニホンザル

### 3 計画の期間

平成29年4月1日から平成34年3月31日までの5年間

### 4 管理を行う区域

山口県全域

### 5 管理の目標等

#### (1) 現状

- 生息状況
  - ・H17の調査時より大幅に増加
    - (H17) 28群、約1,500頭
    - (H27) 118群、約3,500～5,000頭
- 捕獲状況
  - ・非狩猟鳥獣であるため、有害鳥獣捕獲許可により捕獲
  - ・近年、捕獲数は増加傾向

### (2) 被害状況及び被害防除対策

- 農林業被害は、野菜、果樹、水稻、イモ類等を中心に、平成27年度で約1.1億円
- 生活被害、人身被害も発生
- 被害防除対策は、追い払いを中心に実施
  - 一部地域では、集落ぐるみでの追い払いや、モンキードッグを導入

### (3) 管理の基本的な考え方及び目標等

- 基本的な考え方
  - 自然条件下において、農林業被害のない安定した状態への個体群の誘導・維持
- 管理目標
  - 適正な被害防除対策を講じた状況下において、農林業被害や生活環境被害等が顕在化しない状態

### 6 鳥獣の数の調整に関する事項

#### (1) 個体群管理の考え方

- 群れの管理を最小単位として管理

#### (2) 個体群管理の目標

- 被害防除対策の強化とともに、効果的な捕獲を行い、群れの農耕地・市街地への分布拡大を防止し、加害群の加害レベルを逡減させ、レベル0を目指す

#### (3) 個体群管理の方法

- 加害群の分布、数、群れごとの個体数、加害レベルを評価し、捕獲目標頭数、捕獲方法等を検討し、適正な捕獲を実行

※加害レベルは①出没頻度②平均的な出没規模③人への反応④集落への加害状況⑤生活被害により判定

### 7 生息地の保護及び整備に関する事項

- 鳥獣保護区等の指定により生息環境の保護を図る
- 長期的にはニホンザルが生息できる自然環境の整備を図る

### 8 その他管理のために必要な事項

#### (1) 被害防除対策

適切な捕獲と合わせ、効果的な被害防除対策を推進するため、農林業者への普及啓発等を実施

#### (2) ハナレザルの取扱い

農作物被害や生活環境被害を起こすサルについては、積極的に捕獲

#### (3) 調査研究

市町や関係団体、研究機関等との連携の下、加害群の生息状況、被害防除対策の効果検証等の調査研究

#### (4) 計画の推進体制

- 行政、関係団体、関係者等の管理に関する合意形成
- 市町や山口県鳥獣被害防止対策協議会など関係機関との連携強化

#### (5) 計画の進行管理

- 生息・被害状況等のモニタリングを基にした計画の進行管理
- 山口県サル対策検討会や山口県自然環境保全審議会鳥獣保護部会における計画の進捗状況の評価